

【 学部共通科目 】

講義コード	講義科目名	授業形態	単位数	講義期間	曜時限	授業担当者	使用言語	履修・聴講可否		シラバス連番	備考
								科目等履修生	学部聴講生		
0012001	哲学基礎文化学系(ゼミナールI)	ゼミナール	2	前期	木2	井保 和也・五十嵐 滌介・山森 真衣子・服部 圭祐・谷塚 巖	日本語	○	○	学部共通科目1	
0012002	哲学基礎文化学系(ゼミナールII)	ゼミナール	2	後期	木2	福家 佑亮・三上 航志・澤田 和範・加藤 紫苑・山内 翔太	日本語	○	○	学部共通科目2	
0032001	西洋文化学系(ゼミナールI)	ゼミナール	2	前期集中	その他	堀川 宏・霜田 洋祐・廣岡 江梨子・菅 由紀子・岡本 夢子・高田 映介	日本語	○	○	学部共通科目3	
0032002	西洋文化学系(ゼミナールII)	ゼミナール	2	前期集中	その他	中村 海都・山下 大吾・益 敏郎・木島 葉菜子・野末 圭子・橋本 結樹	日本語	○	○	学部共通科目4	
0042001	歴史基礎文化学系(ゼミナールI)	ゼミナール	2	前期	木1	加藤 麻子・竹内 亮・金 賢祐・中町 美香子・佐藤 早紀子・田口 佳奈・金 玄歌・黒羽 亮太・勅使河原 拓也・青木 貴史・伊藤 啓介・松井 直人・平良 駿弘・藤井 崇史	日本語	○	○	学部共通科目5	
0042002	歴史基礎文化学系(ゼミナールII)	ゼミナール	2	後期	木1	松島 隆真・木村 可奈子・田中 悠子・辻田 明子・杉本 陽奈子・増永 理考・谷田 利文・浮網 佳苗・谷口 良生・高木 康裕・馬淵 一輝	日本語	○	○	学部共通科目6	
0052001	行動・環境文化学系(ゼミナールI)	ゼミナール	2	前期	木5	上田 龍平・周 悦・山本 寛樹・池田 裕・翁 和美・宮武 実知子・熊野 貴文・仲尾 周一郎・脇坂 美和子・井口 暁	日本語	○	○	学部共通科目7	
0052002	行動・環境文化学系(ゼミナールII)	ゼミナール	2	後期	木5	山本 めゆ・孫・片田 晶・許 燕華・山本 耕平・永瀬 圭・田多井 俊喜・戸根 民夫・山本 博子・武田 龍樹・仲尾 友貴恵・SANDROVYCH, Tymur・LADMIRAL, Guillaume	日本語	○	○	学部共通科目8	
8041001	英語論文作成法(演習)	演習	2	前期	火4	大崎 紀子	日本語	○	○	学部共通科目9	
8041002	英語論文作成法(演習)	演習	2	後期	火4	大崎 紀子	日本語	○	○	学部共通科目10	
9606001	イタリア語(初級4時間コース)(語学)	語学	8	通年	月2,木3	菅野 類	日本語	○	○	学部共通科目11	
9608001	イラン語(初級)(語学)	語学	4	通年	火2	杉山 雅樹	日本語	○	○	学部共通科目12	
9612001	オランダ語(初級)(語学)	語学	2	前期	火3	河崎 靖	日本語	○	○	学部共通科目13	
9613001	オランダ語(中級)(語学)	語学	2	後期	火3	河崎 靖	日本語	○	○	学部共通科目14	
9614001	ギリシア語(2時間コース)(語学)	語学	4	通年	木5	西村 洋平	日本語	○	○	学部共通科目15	3/11 時限変更
9615001	ギリシア語(4時間コース)(語学)	語学	8	通年	月1,木1	広川 直幸	日本語	○	○	学部共通科目16	
9616001	フランス語(2時間コース)(語学)	語学	4	通年	月3	天野 恭子	日本語	○	○	学部共通科目17	
9617001	フランス語(4時間コース)(語学)	語学	8	通年	月5,木5	Klebanov Andrey	英語	○	○	学部共通科目18	
9622001	スペイン語(初級)(語学)	語学	4	通年	火4	小西 咲子	日本語	○	○	学部共通科目19	
9623001	スペイン語(中級)(語学)	語学	4	通年	火5	小西 咲子	日本語	○	○	学部共通科目20	
9625001	スワヒリ語(中級)(語学)	語学	2	後期	火3	井戸根 綾子	日本語	○	○	学部共通科目21	
9628001	チベット語(初級)(語学)	語学	2	前期	水1	高崎 泉	日本語	○	○	学部共通科目22	
9629001	チベット語(中級)(語学)	語学	2	後期	水1	高崎 泉	日本語	○	○	学部共通科目23	
9630001	チベット語(初級)(語学)	語学	2	前期	月1	高橋 慶治	日本語	○	○	学部共通科目24	
9630002	チベット語(中級)(語学)	語学	2	後期	月1	高橋 慶治	日本語	○	○	学部共通科目25	
9633001	ヒンディー語(初級)(語学)	語学	4	通年	金5	小松 久恵	日本語	○	○	学部共通科目26	
9635001	フランス語(中級)(語学)	語学	2	前期	水4	Charles VINCENT	フランス語	○	○	学部共通科目27	
9635002	フランス語(中級)(語学)	語学	2	後期	水4	Charles VINCENT	フランス語	○	○	学部共通科目28	
9636001	フランス語(上級)(語学)	語学	2	前期	水5	Charles VINCENT	フランス語	○	○	学部共通科目29	
9636002	フランス語(上級)(語学)	語学	2	後期	水5	Charles VINCENT	フランス語	○	○	学部共通科目30	
9639001	ヘブライ語(初級)(語学)	語学	2	前期	火3	手島 勲矢	日本語	○	○	学部共通科目31	
9640001	ヘブライ語(中級)(語学)	語学	2	後期	火3	手島 勲矢	日本語	○	○	学部共通科目32	
9642001	ポーランド語(中級I)(語学)	語学	2	前期	木5	Bogna Sasaki	日本語	○	○	学部共通科目33	
9642002	ポーランド語(中級II)(語学)	語学	2	後期	木5	Bogna Sasaki	日本語	○	○	学部共通科目34	
9644001	ラテン語(2時間コース)(語学)	語学	4	通年	水1	勝又 泰洋	日本語	○	○	学部共通科目35	
9645001	ラテン語(4時間コース)(語学)	語学	8	通年	月2,金2	佐藤 義尚	日本語	○	○	学部共通科目36	
9646001	ロシア語(初級)(語学)	語学	2	後期	水2	中村 唯史	日本語	○	○	学部共通科目37	
9647001	ロシア語(中級)	語学	2	前期	水2	中村 唯史	日本語	○	○	学部共通科目38	
9648001	朝鮮語(初級A)(語学)	語学	2	前期	月2	杉山 豊	日本語	○	○	学部共通科目39	
9649001	朝鮮語(初級B)(語学)	語学	2	後期	月2	杉山 豊	日本語	○	○	学部共通科目40	
9650001	朝鮮語(中級A)(語学)	語学	2	前期	火2	朴 真完	日本語	○	○	学部共通科目41	
9651001	朝鮮語(中級B)(語学)	語学	2	後期	火2	朴 真完	日本語	○	○	学部共通科目42	
9657001	モンゴル語(初級)(語学)	語学	2	前期	木4	植田 尚樹	日本語	○	○	学部共通科目43	
9658001	モンゴル語(中級)(語学)	語学	2	後期	木4	植田 尚樹	日本語	○	○	学部共通科目44	
9661001	ポーランド語(初級)	語学	2	前期	木4	Bogna Sasaki	日本語	○	○	学部共通科目45	
9662001	ポーランド語(初級)	語学	2	後期	木4	Bogna Sasaki	日本語	○	○	学部共通科目46	
9663001	イタリア語(会話)	語学	2	前期	火5	Marco Daniele LIMONGELLI	イタリア語	○	○	学部共通科目47	
9663002	イタリア語(会話)	語学	2	後期	火5	Marco Daniele LIMONGELLI	イタリア語	○	○	学部共通科目48	
9622003	戦争と植民地の歴史認識	特殊講義	2	後期	木2	小山 哲・高嶋 航	日本語	○	○	学部共通科目49	

学部共通科目 1

科目ナンバリング		U-LET40 10012 SJ36									
授業科目名 <英訳>		哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井保 和也 非常勤講師 五十嵐 涼介 非常勤講師 山森 真衣子 非常勤講師 服部 圭祐 非常勤講師 谷塚 巖 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		哲学基礎文化学入門									
[授業の概要・目的]											
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>											
[到達目標]											
哲学基礎文化学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回～3回 山森真衣子講師 パラドクスを考える</p> <p>第4回～6回 五十嵐涼介講師 詭弁の哲学：神の存在証明を巡って</p> <p>第7回～9回 谷塚巖講師 キルケゴール哲学の射程</p> <p>第10回～第12回 小林敬講師 アラン『幸福論』の形而上学</p> <p>第13回～第15回 服部圭祐講師 近代日本哲学史概説 「京都学派」の成立</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。											
----- 哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に適宜指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2

科目ナンバリング		U-LET40 10012 SJ36									
授業科目名 <英訳>		哲学基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 福家 佑亮 非常勤講師 三上 航志 非常勤講師 澤田 和範 非常勤講師 加藤 紫苑 非常勤講師 山内 翔太 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	木2	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		哲学基礎文化学入門									
[授業の概要・目的]											
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>											
[到達目標]											
哲学基礎文化学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>第一回～三回 三上航志講師 デカルトと現代倫理学</p> <p>第四回～六回 澤田和範講師 「イギリス経験論」入門 ロック・バークリ・ヒュームと「物体」の問題</p> <p>第七回～九回 福家佑亮講師 民主政をささえるもの</p> <p>第十回～十二回 加藤紫苑講師 シェリングとドイツ・ロマン派</p> <p>第十三回～十五回 山内翔太講師 精神と生命の形而上学 フランス・スピリチュアリズムの系譜</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。											
----- 哲学基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

哲学基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に適宜指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3

科目ナンバリング		U-LET42 10032 SJ36										
授業科目名 <英訳>		西洋文化学系(ゼミナール I) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 堀川 宏 非常勤講師 霜田 洋祐 非常勤講師 廣岡 江梨子 非常勤講師 菅 由紀子 非常勤講師 岡本 夢子 非常勤講師 高田 映介 文学研究科 確認用				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時間	集中講義	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語	
題目		西洋文学へのいざない										
[授業の概要・目的]												
本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者6名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ロシア文学、ドイツ文学、フランス文学、イタリア文学の作家や作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のさまざまなテーマや方法を学ぶことを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。												
[到達目標]												
西洋文学の代表的な作家・作品について学び、西洋文学の世界の多面的な魅力を理解する。合わせて、文学研究の方法への案内とする。												
[授業計画と内容]												
取り上げる担当者とテーマは次の通り。 一つのテーマについて2～3コマの授業時間をあてる。 第1～2回 堀川宏 「ソポクレス『オイディプス王』を読む」 第3～5回 霜田洋祐 「近代小説と17世紀の絵画の関係：マンゾーニ『婚約者』を中心に」 第6～7回 廣岡江梨子 「ロココ的恋愛と理性—マリヴォアの喜劇と小説を通して」 第8～9回 菅由紀子 「18世紀ドイツにおける外国文学の受容と国民的文学の形成」 第10～11回 岡本夢子 「文学キャバレーLe Chat Noir 伝説の創造」 第12～14回 高田映介 「チェーホフの短編小説の手法」 第15回:総括(高橋宏幸)												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
平常点及び学期末レポート。												
----- 西洋文化学系(ゼミナール I)(2)へ続く -----												

西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：高橋宏幸

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 4

科目ナンバリング		U-LET42 10032 SJ36										
授業科目名 <英訳>		西洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 非常勤講師 中村 満耶 嘱託講師 山下 大吾 非常勤講師 益 敏郎 非常勤講師 野末 幸子 非常勤講師 木島 菜菜子 非常勤講師 橋本 紘樹 文学研究科 確認用				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時間	集中講義	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語	
題目		西洋文学の諸相										
【授業の概要・目的】												
本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ロシア文学、ドイツ文学、アメリカ文学、イギリス文学のさまざまなジャンルの作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のテーマや方法への理解を深めることを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。												
【到達目標】												
西洋文学の代表的な作家・作品について学び、西洋文学の世界の多面的な魅力を理解する。合わせて、文学研究の方法への案内とする。												
【授業計画と内容】												
取り上げるテーマと担当者は次の通り。 一つのテーマについて2～3週の授業時間をあてる。 第1～2回 中村満耶 「ギリシア抒情詩を読む」 第3～5回 山下大吾 「詩人の散文：プーシキンの小説を読む」 第6～7回 益敏郎 「ドイツ文学の歴史哲学エレジー シラー、ヘルダーリン、ノヴァーリスの詩」 第8～10回 野末幸子「イーディス・ウォートン『歓楽の家』を読む」 第11～12回 木島菜菜子「ディケンズ『大いなる遺産』を読む」 第13～14回 橋本紘樹 「フランクフルト学派と戦後ドイツ(1950~60年代を中心に)」 第15回 総括(高橋宏幸)												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
平常点及び学期末レポート。												
----- 西洋文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----												

西洋文化化学系(ゼミナールII)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：高橋宏幸

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 5

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36										
授業科目名 <英訳>		歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 加藤 麻子 非常勤講師 竹内 亮 非常勤講師 金 賢祐 非常勤講師 中町 美香子 非常勤講師 佐藤 早紀子 非常勤講師 田口 佳奈 非常勤講師 金 玄耿 非常勤講師 黒羽 亮太 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 青木 貴史 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 松井 直人 非常勤講師 平良 聡弘 非常勤講師 藤井 崇史 文学研究科 確認用				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語	
題目		歴史学研究の最前線(1) 日本史学のフロンティア										
【授業の概要・目的】												
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。前期の授業では、日本史学の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。												
【到達目標】												
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。												
【授業計画と内容】												
14名のゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。 オリエンテーション 加藤麻子「律令の公文書について」 竹内 亮「出土文字資料の研究方法」 金 賢祐「平安時代の日朝関係」 中町美香子「平安時代の古記録・故実書」 佐藤早紀子「平安時代の貴族装束について」 田口佳奈「平安時代の社会と思想文化」 金 玄耿「平安貴族の階層秩序の編成」 黒羽亮太「中世公家政権の儀礼・政務・文書」 勅使河原拓也「鎌倉幕府の御家人制」 青木貴史「年貢散用状からみる庄園収取の様相」 伊藤啓介「中世の貨幣経済と信用制度」 松井直人「中世後期の京都社会と武士」 平良聡弘「対日使節派遣運動の展開と日本開国 ペリー来航の再検討」												
歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く												

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

藤井崇史「戦間期日本の対中外交と経済界」

*コーディネーター：高嶋 航

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

前期は日本史、後期は東洋史・西南アジア史・西洋史・考古学と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 6

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36										
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名			非常勤講師 松島 隆真 非常勤講師 木村 可奈子 非常勤講師 田中 悠子 非常勤講師 辻田 明子 非常勤講師 杉本 陽奈子 非常勤講師 増永 理考 非常勤講師 谷田 利文 非常勤講師 浮網 佳苗 非常勤講師 谷口 良生 非常勤講師 高木 康裕 非常勤講師 馬淵 一輝 文学研究科 確認用				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語	
題目	歴史学研究の最前線(2) 東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学のフロンティア											
【授業の概要・目的】												
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。後期の授業では、東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。												
【到達目標】												
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。												
【授業計画と内容】												
11名のゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。 オリエンテーション 松島隆真「「悪女」の時代 呂氏専権の実像(1)」 松島隆真「「悪女」の時代 呂氏専権の実像(2)」 木村可奈子「前近代東アジアの国際関係」 田中悠子「イスラーム初期と後期古代 「異端者」をめぐる言説から見えるもの」 辻田明子「メソポタミアの穀物神崇拜(1)」 辻田明子「メソポタミアの穀物神崇拜(2)」 杉本陽奈子「古代ギリシアにおける商業活動と国家間関係」 増永理考「ローマ帝国下の都市における公共建築物、および祝祭 小アジア南部リュキア地方を事例として」 谷田利文「近世フランスにおけるエコノミー・ポリティークの形成」 浮網佳苗「消費から考えるイギリス近代史」 谷口良生「第三共和政をどうとらえるか 地方議会からフランス史の議会史叙述を乗り越える」 谷口良生「19世紀後半フランスにおける選挙と近代 識字・大衆政治の萌芽・選挙「不正」」 高木康裕「縄文時代草創期と石器研究」												
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----												

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

*コーディネーター：高嶋 航

フィードバックについては、授業中に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（40％）と、学期末のレポート（60％）にもとづいて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

前期は日本史、後期は東洋史・西南アジア史・西洋史・考古学と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 7

科目ナンバリング		U-LET44 10052 SJ36									
授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 上田 龍平 非常勤講師 周 悦 非常勤講師 山本 寛樹 非常勤講師 池田 裕 非常勤講師 翁 和美 非常勤講師 宮武 実知子 非常勤講師 熊野 貴文 非常勤講師 仲尾 周一郎 非常勤講師 脇坂 美和子 京都府立大学 教養教育研究・推進機構 文学研究科 井口 暁 確認用				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時間	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	行動文化学への招待										
【授業の概要・目的】											
行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。											
【到達目標】											
行動文化学に関する最新の知見と方法論を習得し、人間が日常使う言語や、心の動き、社会の中の行動とそれを取り巻く地域そのものについて包括的に理解する力をつけます。											
【授業計画と内容】											
下記のテーマについて扱う予定です。変更や追加もあり得ます。											
1「浮気心」の抑制メカニズムを科学的にとらえる - 脳機能イメージングを用いた心理実験入門 (上田龍平) 2音楽を心理学する (周悦) 3赤ちゃんと音楽の心理学 (周悦) 4フィールドからヒトの発達環境をかんがえる 1 (山本寛樹) 5フィールドからヒトの発達環境をかんがえる 2 (山本寛樹) 6入門計量社会学 (池田裕) 7福祉国家に対する態度の社会学 (池田裕) 8都心部、インナーシティにおける住宅市場 (熊野貴文) 9郊外における住宅市場 (熊野貴文) 10医療の場と「日常生活世界」 (翁和美) 11沖縄生活と沖縄研究 (沖縄生活と沖縄研究) 12地域研究と言語学 (仲尾周一郎) 13心の働きの方言差 (脇坂美和子) 14リスク社会学への招待 (井口暁) 15課題学習 (太郎丸博)											
----- 行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

行動・環境文化化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点評価です。毎回小テストを実施し、前期を通じての平均点で評価します。小テストを受けない回は0点として計算されます。

[教科書]

教材は必要に応じて授業中に配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後に担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 8

科目ナンバリング		U-LET44 10052 SJ36										
授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山本 めゆ 非常勤講師 孫・片田 晶 非常勤講師 許 燕華 非常勤講師 山本 耕平 非常勤講師 永瀬 圭 非常勤講師 田多井 俊喜 非常勤講師 戸梶 民夫 非常勤講師 山本 博子 非常勤講師 武田 龍樹 非常勤講師 仲尾 友貴恵 非常勤講師 SANDROVYCH, Tymur 非常勤講師 LADMIRAL, Guillaume 文学研究科 確認用				
	配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	行動文化学への招待											
【授業の概要・目的】												
行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。												
【到達目標】												
行動文化学に関する最新の知見と方法論を習得し、人間が日常使う言語や、心の動き、社会の中での行動とそれを取り巻く地域そのものについて包括的に理解する力をつけます。												
【授業計画と内容】												
下記のテーマについて扱う予定です。変更や追加もあり得ます。												
1 問いを鍛える計量社会学 (山本耕平) 2 計量分析の紹介：性役割意識の変化の要因分解 (永瀬 圭) 3 民主制と代表政権、政権の分類体系 (Guillaume, Ladmiral) 4 社会学の基礎：M・ヴェーバーの社会学 (山本博子) 5 トランスジェンダーと就労問題 (田多井俊喜) 6 多様なセクシュアリティをめぐる課題の変化：規範的差別、市民化、ポリティカル・コレクティブネス (戸梶民夫) 7 日本の多文化共生の歴史 (孫・片田晶) 8 多様な文化背景・社会背景の人と共に生きるとは (許燕華) 9 記憶の人類学的探究 (武田龍樹) 10 「異世界」分析で新たな世界観を得るフィールドワークの方法 (仲尾友貴恵) 11 アフリカとアジア人移民：ガンジーを事例として (山本めゆ) 12 異文化観へのもう一つのアプローチ (Sandrovykh Tymur) 13 理論と実証のあいだ：性別分離研究を題材に (太郎丸博) 14 事実認識と価値判断：階級分析を例に (太郎丸博) 15 課題研究 (太郎丸博)												
----- 行動・環境文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----												

行動・環境文化学系(ゼミナールII)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点評価です。毎回小テストを実施し、後期を通じての平均点で評価します。小テストを受けない回は0点として計算されます。

[教科書]

教材は必要に応じて授業中に配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後に担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 9

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(1)									
[授業の概要・目的]											
<p>学術論文やエッセイ(小論文)などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行うとともに、引用の方法についても基本的な知識と技術を学ぶ。</p>											
[到達目標]											
英語と日本語の修辞法の違いを理解し、論理的で説得力のある文章を英語で書く能力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>1 アカデミック・ライティングについての説明 2-3 学術英語の特徴 4 パラグラフの構造の理解 5 句読法 6-9 パラグラフ・ライティングの演習 10 引用の方法、文献目録の書き方(基本篇) 11-14 小論文作成演習:受講者の作文に基づく内容・構成の検討を含む 15 まとめ フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
[履修要件]											
受講者20人まで											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、アサインメント(3回、計70点)											
[教科書]											
プリント教材を配布する。											
[参考書等]											
<p>(参考書) Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson Longman,2006.) Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』(The University of Michigan Press, 2012)</p>											
[授業外学習(予習・復習)等]											
教材は、事前に配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>課題の提出は、原則として電子メールを利用し、メールによる教員とのやり取りを英語で行うこと によって、英文メールの書き方についても学ぶ。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

学部共通科目 10

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(2)									
[授業の概要・目的]											
英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。											
[到達目標]											
英語と日本語の修辞法の違いを理解するとともに、剽窃を疑われない適切な引用の方法と技術を身につける。											
[授業計画と内容]											
1 アカデミック・ライティングの説明 2-5 引用、要約、文献目録の書き方と演習 6-8 履歴書、自己推薦書の書き方と演習 9 スタイル(MLA、APA、Chicagoスタイル等) 10-14小論文作成演習：受講者の作文に基づく議論、検討を含む 15 まとめ フィードバックの方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
前期を受講していることが望ましい。(受講者20人まで)											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、アサインメント(3回、計70点)											
[教科書]											
プリント教材を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson Longman, 2006) Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』(The University of Michigan Press, 2012.)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
教材プリントは、事前に配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
課題の提出は、原則として電子メールを利用し、メールによる教員とのやり取りを英語で行うこと によって、英文メールの書き方も学ぶ。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目 1 1

科目ナンバリング		U-LET49 29606 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）（語学） Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。 授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソ ドックスなものを想定している。 イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>											
【到達目標】											
<p>イタリア語の基礎的な文法事項を理解し、それをもとに平易な文章ならば読み書きができるよう になる。また基本的な語彙と発音を覚え、簡単な口頭表現も行えるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
【前期】											
第1週：オリエンテーションと発音											
第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞]											
第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere]											
第4週：Lezione 3 [形容詞]											
第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞]											
第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞]											
第7週：Lezione 6 [人称代名詞]											
第8週：Lezione 7 [再起動詞]											
第9週：テスト											
第10週：Lezione 8 [命令法]											
第11週：Lezione 9 [直説法近過去]											
第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去]											
第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来]											
第14週：Lezione 12 [受動態]											
第15週：テスト・フィードバック											
【後期】											
第1週：Lezione 13 [比較級・最上級]											
第2週：Lezione 14 [関係詞]											
第3週：Lezione 15 [ジェルンディオ・ciとneの解説]											
第4週：Lezione 16 [条件法]											
第5週：Lezione 17 [接続法]											
第6週：Lezione 17 [接続法・仮定文]											
第7週：テスト											
第8 - 14週：遠過去および講読											
第15週：テスト・フィードバック											
----- イタリア語（初級4時間コース）（語学）(2)へ続く -----											

イタリア語（初級4時間コース）(語学)(2)

学習の理解度に応じて、変更される場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点 30%（とくに練習問題（宿題）の取り組み、小テスト、発音をみる）
試験 70%（1年を通して4回実施するテストの平均点）

【教科書】

杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5

【参考書等】

（参考書）

『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4-09-515402-0

『ポケットプログレッシブ 伊和・和伊辞典』（小学館）ISBN:4-09-506121-9

【授業外学習（予習・復習）等】

各課の解説後に教科書の練習問題を解いてもらうが、多くの場合これを宿題として与える。次の授業までに解いてくるように。また、各課の終了後には必ず小テストを行う。評価の対象となる重要なものなので、しっかりと復習をしてきてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 1 2

科目ナンバリング		U-LET49 39608 LJ48											
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 国際言語平和研究所 嘱託研究員 文学研究科				杉山 雅樹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語		
題目		イラン語（初級）											
【授業の概要・目的】													
イランの公用語であるペルシア語の初級を学ぶ。基本文法、基礎単語を修得し、初級レベルの総合的なペルシア語力を養うことを目的とする。													
【到達目標】													
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば辞書を使用しつつ読むことができるようになる。													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 インTRODククション、文字</p> <p>第2回 文字、発音、表記の注意点</p> <p>第3～4回 名詞と形容詞、エザーフエの働き</p> <p>第5回 基本文形：be動詞、前置詞</p> <p>第6～9回 動詞：過去形、現在形、未来形、現在完了形、命令形</p> <p>第10～11回 仮説法、助動詞</p> <p>第12回 関係代名詞</p> <p>第13回 接続詞</p> <p>第14回 確認テスト（1）</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>第16回 前期授業の復習、複雑な構造の文章</p> <p>以降の授業では、平易なペルシア語のテキストを継続的に読み進める</p> <p>第17～28回 テキスト読解（1）～（12）</p> <p>第29回 後期授業の総括および確認テスト（2）</p> <p>第30回 フィードバック</p> <p>前半は文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。後半には簡単な物語等を扱い、読解力の基礎を身につける。</p> <p>原則として、前半の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。</p>													
【履修要件】													
特になし													
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----													

イラン語（初級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点評価

前半（基礎文法）は、小テスト（50点）、確認テスト（50点）

後半（テキスト読解）は、予習の取り組み（50点）、確認テスト（50点）

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）

その他、授業中に指示する。

[授業外学習（予習・復習）等]

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前半においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。

簡単な物語等を読み進める後半においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど予習が必須である。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 1 3

科目ナンバリング		U-LET49 29612 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語（初級）（語学） Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		河崎 靖 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語初級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRのおよそA1/A2レベルの語学力を目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め（第1～5回）、話す・聴く能力を高めるドリルも行き（第6～10回）、併せて、ランデスクンデ的な情報を盛り込む（第11～15回）。専門分野を問わず熱心な参加（予習・復習ふくめ）を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
使用しない こちらで教材を準備する。											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『オランダ語の基礎』（白水社） 河崎 靖 『オランダ語学への誘い』（大学書林）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後（予習・復習）確実に準備してもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目 1 4

科目ナンバリング		U-LET49 29613 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語 (中級) (語学) Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 教授 文学研究科		河崎 靖 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語 初・中級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRでB1レベルに達することを指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法の復習を含め(第1～5回)、話す・聴く能力を高めるドリルも行う(第6～10回)。専門的なテキストにもチャレンジできるくらいのレベルを目指す(第11～15回)。専門分野を問わず熱心な参加を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 河崎 靖 『オランダ語の基礎』(白水社) 河崎 靖 『低地諸国の言語事情』(大学書林)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後(予習・復習)確実に準備してもらう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目 1 5

科目ナンバリング		U-LET49 29614 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語 (2 時間コース) (語学) Greek(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学 人間学部 准教授 西村 洋平 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語 (2 時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語 (アッティカ方言) の基礎を学ぶ。アルファベットの学習からはじめて、基本語彙を覚えるとともに、活用・語形変化を中心とする初級文法を習得することを目指す。古典ギリシア語についての一般的知識を獲得することではなく、古典ギリシア語文献を直接に読解するための準備をすることが狙いである。履修者は、この授業に最後まで参加することによって、翌年以降講読や演習の授業について行くために十分なギリシア語力を身につけることができるだろう。</p> <p>古典ギリシア語で書かれた文学・哲学・科学に関する主要著作は独創的であり、それ自体興味深いだけでなく、その絶大な影響によって、西洋の文化・思想・科学をその根源から学ぼうとするときにさまざまな局面で役に立つ。古典ギリシア語の初歩を習得することは、この言語そのものに関心を持つ学生だけでなく、西洋の文学・哲学・歴史・科学の研究を志す学生全般にとって、重要な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語の文字を正しく発音できるようになるところからはじめて、複雑な文であっても、辞書や注釈を利用することによって理解できるようになるところまで進む。 ・ 古典ギリシア語による講読や演習の授業に参加するために十分な語学力を身につけることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>毎回の授業では、教科書を 1 ~ 2 課のペースで進む。新しい文法事項の解説を行ない、教科書の練習問題を宿題として課す。次回の授業で、出席者には宿題の発表をしてもらったあと、文法事項の復習を行ないながら、ギリシア語の文章を解説する。教科書を終えた残りの授業 (3 ~ 4 回) は、参加者の希望と実力を勘案した上で、簡単なテキストの講読を行ないたい。(テキストとコメントリーとはこちらが用意する。)</p> <p>ギリシア語の学習には語形変化の体得が不可欠であるが、授業時間が限られるので、授業時間以外でも積極的に反復練習を行なってもらいたい。習得度合いを確認するため定期的に小テストを行なう予定である。</p> <p>第 1 回 イントロダクション (履修にあたっての注意点や授業の進め方などについて説明する) ・教科書第 1 課の解説 第 2 回 ~ 第 2 5 回 教科書の解説 (毎回 1 ~ 2 課のペースで進める) 第 2 6 回 ~ 第 2 9 回 講読 (平易なテキストの読解) 第 3 0 回 テスト</p>											
----- ギリシア語 (2 時間コース) (語学) (2) へ続く -----											

ギリシア語（2時間コース）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点を重視する（授業への取り組み・宿題の発表・小テストの点数）。受講者の状況次第で年度末にテストを行なう。また、全授業回数の3分の2以上の出席に満たないものは単位を認めない。

[教科書]

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:9784000008297

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業で解説した課の練習問題を宿題として課す。授業時間以外の最低限の学習として、自分の力で宿題の和訳を準備することが求められる。さらに、新出単語の語形変化を練習してもらいたい。ギリシア語2時間コースは授業時間が限られるので、ギリシア語の要となる語形変化の定着は、自主的な反復練習に頼らざるをえない。可能なかぎり毎日、語形変化の練習時間を確保してもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

出席者には相応の準備が求められる。特に語形変化の反復練習を自主的に行なってもらいたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 16

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語 (4時間コース) (語学) Greek(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 広川 直幸 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月1,木1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ギリシャ語 (4時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>ギリシャ語はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字B文書を別にすれば、紀元前8世紀から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシャ語」と呼ばれる期間のギリシャ語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前5～4世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシャ語の中で最も豊富に文献を残しており、それゆえ比較的よく実態が解明されている方言である。アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献（例えばホメロス）やそれ以後の文献（例えば『新約聖書』）を読むためにも必須である。この授業は、教科書による基礎的文法と最小限の語彙の習得を目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくするところまでを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシャ語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が欲するあるいは必要とするギリシャ語原典（紀元前8世紀の叙事詩から紀元後4世紀頃の擬古文までの読解に取りかかることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>まずは全36課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折（いわゆる語形変化）なので、毎回パラダイム（いわゆる変化表）の小テストを行い、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度に徹底的に屈折の口頭練習を行うことにより知識の定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期 第1回 イン트로ダクション、第1課「文字と発音」の解説 第2回 第1課の練習、第2課「アクセント」の解説 第3回 第1課と第2課の復習 第4回 第3課の解説 第5回 第3課の練習問題、第4課の解説 第6回～第30回 第5回と同様に授業の前半に前回指定した練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期 第31回～第38回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。 第39回～第60回 平易なテキストを講読する。</p>											
----- ギリシア語 (4時間コース) (語学)(2)へ続く -----											

ギリシア語（4時間コース）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（課題遂行状況、積極的な授業参加、小テストの得点）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。

出席数が全授業数の4分の3に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。具体的なことは、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、遠慮をせずに積極的に質問すること。

授業の初めに小テストをするので、遅刻をしないこと。

遅刻は3回につき欠席1回とみなす。また、30分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 17

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。											
【到達目標】											
古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。											
【授業計画と内容】											
文法事項の解説と練習問題による読解演習とを平行して授業を進める。扱う主な文法事項は以下である：											
前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3週) 名詞・形容詞曲用(母音語幹：第4-8週、子音語幹：第9-13週) 代名詞、数詞(第14-15週)											
後期 動詞現在活用(第1種活用：第16-18週、第2種活用：第19-22週) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29週) 複合語(第30週)											
* 授業の進行は学習の理解度に応じて調整する場合がある。 * 試験のフィードバックについては、授業の中で指示する。											
【履修要件】											
予備知識は必要ない。幅広い専攻からの受講を歓迎する。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(練習問題の予習の評価、50点)と前期末筆記試験(15点)、年度末筆記試験(35点)による。											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[教科書]

J.ゴンダ(鎧淳訳)『サンスクリット語初等文法』(春秋社)ISBN:4393101081
必要に応じて、補助資料(プリント)を配布する。

[参考書等]

(参考書)
上村 勝彦『サンスクリット語・その形と心』(三省堂)ISBN:4385364656

[授業外学習(予習・復習)等]

予習:毎週、練習問題の解答(訳)を準備してくること。
復習:授業で説明した文法事項を復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 1 8

科目ナンバリング		U-LET49 19617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the language. The main focus is laid upon learning the foundations of grammar, developing a basic vocabulary, and acquiring skills in understanding of Sanskrit texts.											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi) - to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit - to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit - to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit 											
【授業計画と内容】											
<p>We will largely follow the plan laid out in M. Deshpande ' s manual “ Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer ” .</p> <p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). We will spend the main bulk of this time (ca. 25 weeks) on the study and practice of Sanskrit grammar. During the final ca. five weeks of the course we will turn to reading of simple Sanskrit texts.</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, biweekly homework.											
【教科書】											
<p>M. Deshpande 『 Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer 』 (The University of Michigan Press) ISBN: 9780891480792</p> <p>E.D. Perry 『 A Sanskrit Primer 』 (Nabu Press 2011) ISBN:178794733</p>											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

Arthur A. MacDonell 『A Sanskrit Grammar for Students』 (OUP, 1971)

[授業外学習(予習・復習)等]

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English and translations from English into Sanskrit. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two hours per class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 19

科目ナンバリング		U-LET49 29622 LJ48											
授業科目名 <英訳>		スペイン語(初級)(語学) Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 小西 咲子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語		
題目		スペイン語(初級)											
[授業の概要・目的]													
スペイン語の初級文法を教科書に沿って学習する。授業は文法事項の解説、簡単なテキストや会話文の読解、練習問題からなる。初級文法を一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。													
[到達目標]													
CEFRのA1程度のレベルを修得する。辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。													
[授業計画と内容]													
以下のとおり教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、補助的にプリント教材を挿入する可能性もある。													
<p>第1週：オリエンテーション、第0課 [アルファベット、母音と子音、アクセント]</p> <p>第2週：第1課 [名詞、冠詞]</p> <p>第3週：第2課 [主語人称代名詞、動詞 直説法現在形、否定文]</p> <p>第4週：第3課 [動詞 ser, estar, hay、形容詞]</p> <p>第5週：第4課 [所有詞、指示詞、疑問文と疑問詞]</p> <p>第6 7週：第5課 [動詞 直説法現在形(2)、目的格人称代名詞]</p> <p>第8 9週：第6課 [動詞 直説法現在形(3)、時刻表現、過去分詞、現在完了形]</p> <p>第10 11週：第7課 [gustar構文、前置詞各人称代名詞、再帰動詞]</p> <p>第12週：第8課 [動詞 直説法点過去]</p> <p>第13週：第9課 [動詞 直説法線過去、不定語・否定語、現在分詞]</p> <p>第14週：過去時制とアスペクトについて確認</p> <p>第15週：第10課 [動詞 直説法未来、関係詞(1)]</p> <p>第16週：中間テスト [第15週までの学習項目(直説法)の確認]</p> <p>第17週：中間テストのレビュー、直説法各時制の確認、接続法への導入</p> <p>第18 19週：第11課 [動詞 接続法現在]</p> <p>第20週：第12課 [動詞 命令形、感嘆文、動詞 直説法過去完了]</p> <p>第21週：第13課 [比較表現、関係詞(2)]</p> <p>第22週：第14課 [動詞 直説法過去未来、接続法過去]</p> <p>第23週：直説法過去未来完了</p> <p>第24 29週：テキスト講読</p> <p>第30週：期末テスト、総括</p>													
<p>第24週以降の「講読」の素材は学生の関心領域、希望に沿って選択する。 フィードバックの実施方法は授業時に説明する。</p>													
----- ス페인語(初級)(語学)(2)へ続く -----													

スペイン語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

小テスト、期末テスト 80%

平常点（発音・イントネーション、予習・復習、問題解答状況等） 20%

[教科書]

長谷川信弥 他 『これでわかる！スペイン語の初級』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55078-7

[参考書等]

（参考書）

辞書：『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

辞書：『現代スペイン語辞典』（白水社）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書(3,200+税)）

[授業外学習（予習・復習）等]

進度に沿って各課の予習（語彙調査、例文等の下訳等）、復習（既習事項の定着）のうえ出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

特にない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2 0

科目ナンバリング		U-LET49 29623 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語 (中級) (語学) Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 非常勤講師 小西 咲子 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語 (中級)									
[授業の概要・目的]											
教科書に沿って基礎文法を復習しながらテキスト読解を通してスペイン語の歴史や現状を学ぶ。併せて練習問題、リスニング、作文、対話プラクティスを通して基礎レベル以上の「語学4技能」の獲得を目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2からB1程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の論説文や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・既習の語彙や文章を音声的にも理解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作るだけでなく、口頭でも発信することができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペイン語圏の社会・文化に関する理解を深める。 											
[授業計画と内容]											
教科書に沿って授業を行う。 授業2回で1課もしくはそれ以上のペースで授業を進める。 また補助的にプリント教材等を使用する場合もある。											
<p>第 1 回 オリエンテーション、第 1 課への導入</p> <p>第 2-3 回 第 1 課 Un idioma artificial: el esperanto 「エスペラント語」疑問詞, 関係詞, 接続詞</p> <p>第 4-5 回 第 2 課 Las primeras gramáticas del español 「スペイン語史: ネブリハとベリオの文法」直説法現在の規則動詞, 目的格人称代名詞</p> <p>第 6-7 回 第 3 課 El lenguaje de Internet 「ネット用語」直説法現在の不規則活用</p> <p>第 8-9 回 第 4 課 La renovación del vocabulario 「リニューアルされる語彙」再帰動詞</p> <p>第 10-11 回 第 5 課 El espanyol y los anglicismos 「スパングリッシュと英語的表現」過去分詞, 受身文, 直説法現在完了</p> <p>第 12-13 回 第 6 課 “ Literalmente ” 「 “ Literalmente ” の意味の変化」直説法点過去</p> <p>第 14-15 回 第 7 課 Lenguas en peligro de extinción 「消滅危機言語」直説法線過去, 現在分詞</p> <p>第 16 回 中間テスト</p> <p>第 17-18 回 第 8 課 El nacimiento de la “ ñ ” 「 “ ñ ” の誕生」直説法点過去と線過去の用法の違い,</p> <p>第 19-20 回 第 9 課 El futuro del español 「スペイン語の今とその未来」直説法未来と未来完了</p> <p>第 21-22 回 第 10 課 Lengua y género 「差別を避けるためのスタイルガイド」命令文I</p> <p>第 23-24 回 第 11 課 El estudio de las lenguas muertas 「死語 (ラテン語)」接続法現在I</p> <p>第 25-26 回 第 12 課 Amenazar en subjuntivo 「接続法か直説法か, それが問題だ」接続法現在II</p> <p>第 27-28 回 第 13 課 Discriminación lingüística 「言語差別の状況」接続法過去, 独立文</p> <p>第 29-30 回 第 14 課 Comunicación no verbal 「非言語コミュニケーション」命令文IIと直説法過去未来</p>											
----- ス페인語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											

スペイン語（中級）(語学)(2)

フィードバックの実施方法は授業時に説明する。

[履修要件]

スペイン語の初級文法が修得済みであること。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

試験（中間と期末）80%

平常点（出席状況、予習復習状況、発音とイントネーション）20%

[教科書]

中川節子、岡あゆみ、Juan José López 『スペイン語とことば El español y la aventura de las lenguas』
（三修社）ISBN:978-4-384-42017-3 C1087

[参考書等]

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級までを対象とした文法参考書）

各自がスペイン語初習時に使用した入門教科書等も参照すること。

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の予習（語彙調べ、テキストの下訳）、復習（既習事項の定着）のうえ出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

少人数クラスになることが予想されるので、授業時限の前後に対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2 1

科目ナンバリング		U-LET49 29625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

[教科書]

竹村景子 『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2 2

科目ナンバリング		U-LET49 29628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）（語学） Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宮崎 泉 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
[授業の概要・目的]											
チベット語初級文法の基礎を解説する。古典チベット語文献の基礎的な読解能力の養成を目的とするが、授業では現代チベット語も扱う。											
[到達目標]											
後期のチベット語（初級）の授業を受講するための初歩的な知識を習得する。											
[授業計画と内容]											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1週） 2. 文字と発音（4～5週） 3. 名詞（3～4週） 4. 形容詞（1～2週） 5. 助動詞（2～3週） 6. まとめ（1週） フィードバック方法は授業中に説明します。											
初級文法の解説はさらに後期のチベット語（初級）の授業に続く。この前期の授業は後期の授業を受講するためにチベット語初級文法の基礎を解説する授業になる。											
[履修要件]											
特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。授業中の発表により評価する。											
[教科書]											
授業中にプリントを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
配布するプリントにある例文を予習しておくこと、毎回の授業の要点を復習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目 2 3

科目ナンバリング		U-LET49 29629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語(初級)(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宮崎 泉 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
[授業の概要・目的]											
チベット語初級文法を解説する。古典チベット語文献の基礎的な読解能力の養成を目的とするが、授業では現代チベット語も扱う。											
[到達目標]											
基本的なチベット語の読解能力を習得する。											
[授業計画と内容]											
前期のチベット語(初級)に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞(4~5週) 2. 複文(3~4週) 3. チベット語テキスト演習(5~7週) 4. フィードバック(1週) フィードバック方法は授業中に説明します。											
基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。											
[履修要件]											
前期のチベット語(初級)を受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。授業中の発表により評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
配布するプリントにある例文を予習しておくこと、毎回の授業の要点を復習することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目 2 4

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
前期の授業は、テキストを丁寧に読みながら、文法事項を確認することで進められる。テキストは毎回1-2話ずつのペースで読む予定である。受講生は、内容を把握するだけではなく、文法事項についても理解することが求められる。助詞や助動詞の用法、また動詞の形態変化などの理解を深めることが目標の一つである。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（中級）(語学)(2)

[教科書]

テキストは、プリントとして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、非担当箇所についても予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2 5

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
後期の授業は、テキストを丁寧に読みつつ、前期よりもペースを上げて読む予定である。受講生は、文法事項を正確に把握しつつ、内容をより深く理解することが求められる。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。前期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

手ペット語（中級）(語学)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、非担当箇所についても予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2 6

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48											
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 専任講師 文学研究科				小松 久恵 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語		
題目		ヒンディー語（初級）											
【授業の概要・目的】													
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。													
【到達目標】													
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。													
【授業計画と内容】													
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。													
前期													
1．導入【1週】													
2．文字と発音【4週】													
3．文法と会話【9週】													
4．中間試験【1週】													
5．中間試験のフィードバック【1週】													
後期													
6．文法と会話【8週】													
7．文法と絵本・新聞講読【6週】													
8．期末試験【1週】													
9．期末試験のフィードバック【1週】													
【履修要件】													
授業には継続的に参加すること。													
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----													

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（30％）と筆記試験（期末30、年度末40）によって評価する。

[教科書]

町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

[参考書等]

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する。

[授業外学習（予習・復習）等]

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2 7

科目ナンバリング		U-LET49 29635 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (中級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Intermediate French									
【授業の概要・目的】											
<p>This class is aimed to those who wish to improve their reading, writing, and oral skills, in order to prepare a stay in a French-speaking country, or to get in touch with French-speaking people.</p> <p>The content and method will be focused on the preparation for the DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education. During the semester, we shall proceed with the levels A2 and B1 (elementary levels, dealing with expressing oneself's opinion on a practical topic, with role playing in a common situation, with achieving a simple task).</p>											
【到達目標】											
<p>-to improve one's reading, writing, and oral skills</p> <p>-to prepare a stay in a french-speaking country</p> <p>-to prepare DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, during the remaining weeks 2 to 14, we will train on various exercises, fitting the schemes of the exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>The class will be held in French.</p>											
【履修要件】											
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
There shall be an intermediary test and, at the end of the semester, a final DELF test. However, the global grade will be given in consideration not only of these tests but also of the attendance and activity during the whole semester.											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											

フランス語（中級）(語学)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

Before the lecture, it is necessary to learn grammar and lexical elements and to do preparatory exercises (indications will be given each time by the teacher).

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2 8

科目ナンバリング		U-LET49 29635 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (中級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Intermediate French									
【授業の概要・目的】											
<p>This class is aimed to those who wish to improve their reading, writing, and oral skills, in order to prepare a stay in a French-speaking country, or to get in touch with French-speaking people.</p> <p>The content and method will be focused on the preparation for the DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education. During the semester, we shall proceed with the levels A2 and B1 (elementary levels, dealing with expressing oneself's opinion on a practical topic, with role playing in a common situation, with achieving a simple task).</p>											
【到達目標】											
<p>-to improve one's reading, writing, and oral skills</p> <p>-to prepare a stay in a french-speaking country</p> <p>-to prepare DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, during the remaining weeks 2 to 14, we will train on various exercises, fitting the schemes of the exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>The class will be held in French.</p> <p>We shall see new themes, words and structures, different from the ones of the first semester.</p>											
【履修要件】											
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
There shall be an intermediary test and, at the end of the semester, a final DELF test. However, the global grade will be given in consideration not only of these tests but also of the attendance and activity during the whole semester.											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											

フランス語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

Before the lecture, it is necessary to learn grammar and lexical elements and to do preparatory exercises (indications will be given each time by the teacher).

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 2 9

科目ナンバリング		U-LET49 39636 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (上級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Advanced French									
【授業の概要・目的】											
<p>The course is proposed for already advanced students. It will be given in French only and requires a good level.</p> <p>It gives a preparation to DELF and DALF diplomas (exams organized by the French Ministry of Education to certify linguistic skills).</p> <p>The class will focus on the preparation of exercices of DELF B2 and DALF C1, exams that are required to enter famous selective schools and universities in France.</p> <p>Through many documents about French culture and contemporary society, we will develop the capacities to debate and analyse graphs and opinions, to describe a scene and to express a point of view. Grammar and vocabulary will be used on thematic sessions.</p>											
【到達目標】											
<p>-to improve one's reading, writing, and oral skills</p> <p>-to prepare DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education.</p> <p>-to analyze and sum up a document, to debate and express an opinion, to understand a radio talk.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, during the remaining weeks 2 to 14, we will train on various exercices, fitting the schemes of the exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>The class will be held in French and requires an advanced level.</p>											
【履修要件】											
<p>To attend to this class, students shall have a good level in French, meaning at least two years of French courses or one year of intensive courses.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>There shall be an intermediary test and, at the end of the semester, a final DELF test. However, the global grade will be given in consideration not only of theses tests but also of the attendance and activity during the whole semester.</p>											
----- フランス語 (上級) (語学) (2) へ続く -----											

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

Before the lecture, it is necessary to learn grammar and lexical elements and to do preparatory exercises (indications will be given each time by the teacher).

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 0

科目ナンバリング		U-LET49 39636 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (上級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Advanced French									
【授業の概要・目的】											
<p>The course is proposed for already advanced students. It will be given in French only and requires a good level.</p> <p>It gives a preparation to DELF and DALF diplomas (exams organized by the French Ministry of Education to certify linguistic skills).</p> <p>The class will focus on the preparation of exercices of DELF B2 and DALF C1, exams that are required to enter famous selective schools and universities in France.</p> <p>Through many documents about French culture and contemporary society, we will develop the capacities to debate and analyse graphs and opinions, to describe a scene and to express a point of view. Grammar and vocabulary will be used on thematic sessions.</p>											
【到達目標】											
<p>-to improve one's reading, writing, and oral skills</p> <p>-to prepare DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education.</p> <p>-to analyze and sum up a document, to debate and express an opinion, to understand a radio talk.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, during the remaining weeks 2 to 14, we will train on various exercises, fitting the schemes of the exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>The class will be held in French and requires an advanced level.</p> <p>We shall see new themes, words and structures, different from the ones of the first semester.</p>											
【履修要件】											
<p>To attend to this class, students shall have a good level in French, meaning at least two years of French courses or one year of intensive courses.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>There shall be an intermediary test and, at the end of the semester, a final DELF test. However, the global grade will be given in consideration not only of these tests but also of the attendance and activity during the whole semester.</p>											
----- フランス語 (上級) (語学) (2) へ続く -----											

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

Before the lecture, it is necessary to learn grammar and lexical elements and to do preparatory exercises (indications will be given each time by the teacher).

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 1

科目ナンバリング		U-LET49 39639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号などの聖書テキストの伝統、またラビ文学を含む歴史的な言語文化の変化を概要するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と音、3．母音記号、4．形容詞と名詞（男性形と女性形他）、5．形容詞と名詞（単数形と複数形他）、6．人称代名詞と指示代名詞（前置詞ほかを含む）、7．存在詞（定冠詞ほかを含む）、8．語根とビニヤン（導入）、9．現在分詞、10．ヘブライ語辞書の使い方、11．語根とビニヤン（基本形）、12．語根とビニヤン（ラメッド＝ヘイ）、13．語根とビニヤン（アイン＝バブ・ユッド他）、14．テキスト読解、15．小テストとテキスト読解											
* 1 課題あたり 1～2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2～3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価・・・宿題（30%）、クイズ（30%）、小テスト（40%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（初級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（初級）(語学)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題や練習問題をする。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 2

科目ナンバリング		U-LET49 39640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムと、その文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含む現代ヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いること。母音記号なしのテキストも多少読めること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．ヘブライ語文法（名詞文）の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．不規則変化（III-h/y）、7．不規則変化（II-w/y、I-y）、8．不規則変化（I-n、Geminate Verbs）、9．自動詞と形容詞（パアルとニフアル）、10．聖書ヘブライ語の時制問題、11．動詞と意志（ヒトパエルとニフアル）、12．使役動詞と他動詞（ヒフィルとピエル）、13．テキスト読解（現代文）、14．テキスト読解（ルネサンス期）、15．小テストとテキスト読解</p> <p>* 1課題あたり1～2回の授業を要する場合もある。 ** 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 *** 学習の区切りで、2～3回の確認クイズをする。</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----ヘブライ語（中級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点評価・・・宿題（30％）、クイズ（30％）、小テスト（40％）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 3

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (中級II) (語学) Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級II									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
基本的に定期試験(70%)での評価となります。授業へのぞむ姿勢(30%)も考慮します。											
【教科書】											
授業中に資料を配布します。											
【参考書等】											
(参考書)											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』(白水社) ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語(中級II)(語学)(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

特になし

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 4

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (中級II) (語学) Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
基本的に定期試験(70%)での評価となります。授業へのぞむ姿勢(30%)も考慮します。											
【教科書】											
授業中に資料を配布します。											
【参考書等】											
(参考書)											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正[編]『ポーランド語辞典』(白水社)ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語(中級II)(語学)(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

特になし

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 5

科目ナンバリング		U-LET49 29644 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語(2時間コース)(語学) Latin(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書(全19課・82節(+付録分の2節))の内容を小分けにし、一年かけてゆっくり学習を進めてゆく。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
<p>〔前期〕</p> <p>第1回～第14回：教科書第1節～第42節</p> <p>前期定期試験</p> <p>第15回：試験フィードバック</p> <p>〔後期〕</p> <p>第16回～第29回：教科書第43節～第82節</p> <p>後期定期試験</p> <p>第30回：試験フィードバック</p>											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう(この練習問題は、宿題とすることもある)。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
特になし											
----- ラテン語(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

ラテン語（2時間コース）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（30％）・毎回の小テストでの得点（30％）・定期試験での得点（40％）の合算による。

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 6

科目ナンバリング		U-LET49 29645 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語 (4 時間コース) (語学) Latin(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 義尚 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月2,金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語 (4 時間コース)									
【授業の概要・目的】											
ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。古代ローマから近世にいたるまで哲学，文学は言うに及ばず，法律，自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語，文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はまだ少し知られてもいいだろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。											
【到達目標】											
古代，中世，近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。フランス語，イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで，これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので，変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字，発音，アクセントから始まって，動詞，名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。											
前期											
第 1 回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。											
第 2 回～第 3 0 回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ。											
後期											
第 1 回～第 1 5 回；教科書を二課ずつすすみ，学習し終える。											
第 1 6 回～第 2 9 回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。											
第 3 0 回；試験。学習到達度の評価											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点60点，試験40点で評価する。											
----- ラテン語 (4 時間コース) (語学) (2) へ続く -----											

ラテン語（4時間コース）(語学)(2)

[教科書]

松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）ISBN:4-8096-4301-8
教科書だけではわかりにくいので、解説資料を配布する。
教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習してくること。

（その他（オフィスアワー等））

ギリシャ語既習であればラテン語学習はかなり容易。逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシャ語学習は容易になる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 7

科目ナンバリング		U-LET49 19646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語(初級)(語学) Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客様が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ロシア語（初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学習（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 8

科目ナンバリング		U-LET49 19647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語 (中級) Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。(第1回～第6回) 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか?」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法 その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。(第7回～12回) ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相 文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。(第13回～第14回) 第15回 まとめ フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語(初級)を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語(中級) (2)へ続く -----											

ロシア語（中級）（2）

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学習（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 3 9

科目ナンバリング		U-LET49 29648 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級A）（語学） Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
[授業の概要・目的]											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
[到達目標]											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
[授業計画と内容]											
第一週：オリエンテーション 第二・三・四週：文字と発音 第五～十四週：文法と会話。毎回一課相当の内容を進度の目安とするが、理解程度に応じて適宜調整し、定期的にまとめ、復習の時間を設ける。 第十五週：期末試験 フィードバック方法は授業中に案内する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（30点）と学期末、年度末試験（70点）。											
[教科書]											
松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0 教科書以外に随時プリントを使用する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。 復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。											
（その他（オフィスアワー等））											
出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目 4 0

科目ナンバリング		U-LET49 29649 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級B）（語学） Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
[授業の概要・目的]											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
[到達目標]											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
[授業計画と内容]											
原則として以下の進度を目安とするが、理解程度に応じて適宜調整する。 第一週：オリエンテーション・前期の学習内容の確認 第二～十四週：文法と会話。毎回一課相当の内容を進度の目安とするが、理解程度に応じて適宜調整し、定期的にまとめ、復習の時間を設ける。 第十五週：期末試験 フィードバック方法は授業中に案内する。											
[履修要件]											
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（30点）と学期末、年度末試験（70点）。											
[教科書]											
松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0 教科書以外に随時プリントを使用する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。 復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。											
（その他（オフィスアワー等））											
出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目 4 1

科目ナンバリング		U-LET49 29650 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語 (中級 A) (語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 教授 朴 真完 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語文法における用言の活用、助詞の用法、接続語尾にいたるまで、中級文法を一通り解説する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。また、適宜文化、歴史の話題を折り込み韓国・朝鮮についての理解も深めてゆきたい。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 発音の注意点 第2回 音変化 第3回 発音の注意点 第4-5回 丁寧語尾(平叙、疑問) 第6回 尊敬 第7回 接続語尾 第8-9回 時制(過去・未来) 第10回 連体形 第11回 助詞の形式と用法 第12-13回 変則活用 第14回 数詞と助数詞 第15回 期末試験											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業での発表 (20点)、小テスト (1回、20点)、期末試験 (60点)											
----- 朝鮮語 (中級 A) (語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級A）(語学)(2)

[教科書]

熊谷明泰 『アリラン』（朝日出版社）ISBN:978-4255556185

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』（小学館）

[授業外学習（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 4 2

科目ナンバリング		U-LET49 29651 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語 (中級 B) (語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 教授 朴 真完 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語 (中級)									
【授業の概要・目的】											
中級レベルの文法、発音、会話、作文、読解を学習する。主要テーマとして日韓交流の歴史を挙げ、語学だけではなく、文化・社会・歴的事情も視野に入れ、総合的に韓国・朝鮮の諸般事情について情報を与える。授業内容の理解を確認するために小テストを実施する。必要に応じて、プリント教材を配布して内容の理解を助ける。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 受け身 第2回 名詞化語尾 第3-4回 形容詞からの派生動詞 第5回 選択否定 第6回 限定 第7回 引用 第8-9回 漢字語 第10-11回 主要な助詞 第12-13回 主要な語尾 第14回 疑問形 第15回 期末試験											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業での発表 (20点)、小テスト (1回、20点)、期末試験 (60点)											
【教科書】											
曹美庚, 林炫情, 金眞 『韓国文化を読む』 (朝日出版社) ISBN:978-4255556147											
----- 朝鮮語 (中級 B) (語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級B）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』（小学館）

[授業外学習（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 4 3

科目ナンバリング		U-LET49 19657 LJ48									
授業科目名 <英訳>		モンゴル語（初級）（語学） Mongolian				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 植田 尚樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		モンゴル語（初級）									
[授業の概要・目的]											
モンゴル国で広く話されている「ハルハ・モンゴル語」を学ぶ。モンゴル語の文字と発音、文法を一通り習得し、初級レベルの会話、読み書きができるようになることを目的とする。また、モンゴル語を学ぶうえで重要となる、モンゴルの社会や文化についても解説する。											
[到達目標]											
モンゴル語の仕組みについて知り、モンゴル語で簡単な会話や読み書きができるようになる。また、モンゴルの社会や文化についての理解を深めることができる。											
[授業計画と内容]											
第1回：オリエンテーション 第2-3回：文字と発音、挨拶表現 第4-5回：基本の文型 第6回：数詞、所有表現 第7-9回：名詞の格 第10-12回：動詞の時制 第13-14回：動詞語尾、命令・願望表現 第15回：期末試験 第16回：フィードバック 基本的には教科書に沿って進む。受講生の人数や到達の度合いによって、授業の進度は適宜調整する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への取り組み(40%)と学期末の試験(60%)によって評価する。											
[教科書]											
橋本勝 『ニューエクスプレス モンゴル語(CD付)』(白水社) ISBN:978-4-560-08549-3											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で取り上げた語彙や文法を会話や作文で使えるように、復習し整理しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目 4 4

科目ナンバリング		U-LET49 19658 LJ48									
授業科目名 <英訳>		モンゴル語（中級）（語学） Mongolian				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 植田 尚樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		モンゴル語（中級）									
【授業の概要・目的】											
モンゴル国で広く話されている「ハルハ・モンゴル語」を学ぶ。モンゴル語の文法、よく用いられる表現、他言語との異同などについて解説する。また、モンゴル語を学ぶうえで重要となる、モンゴルの社会や文化についても詳しく解説する。											
【到達目標】											
モンゴル語の仕組みについて深く知り、モンゴル語で中級レベルの会話や読み書きができるようになる。また、モンゴルの社会や文化についての理解を深めることができる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1-2回：オリエンテーション、初級レベルの文法の復習</p> <p>第3回：継続、連用形を用いた表現</p> <p>第4回：意志・勧誘表現</p> <p>第5-7回：複文、接続詞</p> <p>第8回：自動詞・他動詞とヴォイス</p> <p>第9-10回：モダリティー、形容詞・数詞を用いた表現</p> <p>第11-13回：いろいろな文末表現</p> <p>第14回：短い文章の読解</p> <p>第15回：期末試験</p> <p>第16回：フィードバック</p> <p>基本的には教科書に沿って進む。受講生の人数や到達の度合いによって、授業の進度は適宜調整する。</p>											
【履修要件】											
モンゴル語（初級）を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への取り組み（40%）と学期末の試験（60%）によって評価する。											
【教科書】											
橋本勝 『ニューエクスプレス モンゴル語（CD付）』（白水社）ISBN:978-4-560-08549-3											
----- モンゴル語（中級）（語学）(2)へ続く -----											

モンゴル語（中級）（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業で取り上げた語彙・表現・文法などを、会話・作文・読解で適切に使えるように、復習し整理しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 4 5

科目ナンバリング		U-LET49 19661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級 I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . ポーランド語の基礎知識 (文字、アクセント、語尾変化、発音など) 【1 週】 2 . 基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙 【2 週】 3 . 基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化 【1 週】 4 . 名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け 【1 週】 5 . 名詞の単数生格、panとpaniの用法 【1 週】 6 . 名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方 【1 週】 7 . ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認 【1 週】 8 . 名詞の単数複数対格、動詞の第1変化 (-m,-sz型) 【1 週】 9 . 動詞の第2変化 (-e,-isz型)、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現 【1 週】 10 . 動詞の第3変化 (-e,-esz型)、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格 【1 週】 11 . sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉 【1 週】 12 . 前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習 【1 週】 13 . 映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる 【1 週】 14 . 定期試験 【1 週】 15 . フィードバック 【1 週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
定期試験 (80%) と授業にのぞむ姿勢 (20%) を考慮して、成績をつけます。											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ 『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学習（予習・復習）等]

特になし

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 4 6

科目ナンバリング		U-LET49 19662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 前期で学習した内容の確認と復習【1週】 2 . 否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】 3 . 動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】 4 . 動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】 5 . 動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】 6 . 命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】 7 . 移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞、関係代名詞ktoryの用法【1週】 8 . ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】 9 . 仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】 10 . sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】 11 . 副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】 12 . 非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】 13 . 一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】 14 . ポーランドの文化に触れる【1週】 15 . 定期試験【1週】 16 . フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
前期のポーランド語 (初級I) の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験（80％）と授業にのぞむ姿勢（20％）を考慮して、成績をつけます。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9（授業中にプリントも配布します。）

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学習（予習・復習）等]

特になし

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 4 7

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Marco Daniele LIMONGELLI 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso si propone lo sviluppo delle quattro abilità base della comunicazione (parlare, scrivere, leggere e ascoltare), con una particolare attenzione alla comunicazione orale, attraverso l'analisi di due argomenti fondamentali nella cultura italiana:</p> <p>Primo semestre: la cucina</p>											
【到達目標】											
<p>Il corso applicherà ai vari aspetti della quotidianità italiana le nozioni grammaticali e sintattiche precedentemente studiate.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Il corso applicherà a due aspetti della quotidianità italiana (la cucina e il patrimonio culturale) le nozioni grammaticali e sintattiche precedentemente studiate. Per questo scopo si ricorrerà all'ascolto di canzoni, alla visione di brevi spezzoni di film, alla lettura di articoli e fumetti dai principali quotidiani, siti e blog. È inoltre previsto il ripasso e l'approfondimento di alcune nozioni di sintassi e di grammatica della lingua italiana attraverso lo svolgimento di alcune esercitazioni scritte e orali.</p>											
【履修要件】											
<p>Questo corso è rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facoltà.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>È ammessa una sola assenza. Si richiede una partecipazione attiva da parte dello studente attraverso la lettura e lo svolgimento di esercizi settimanali. Inoltre, periodicamente saranno assegnati esercizi preparatori alla lezione, da svolgere individualmente o in gruppo. Al termine del corso, lo studente dovrà redigere una breve presentazione su uno degli argomenti trattati durante le lezioni.</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											

イタリア語（会話）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

Settimanalmente verranno assegnati allo studente degli esercizi preparatori alla lezione, da svolgere da solo, o in gruppo insieme agli altri partecipanti della classe. È richiesta la partecipazione attiva da parte dello studente al quale è richiesto di intervenire nelle discussioni di classe e di preparare una breve presentazione su un argomento a scelta tra quelli che saranno trattati durante le lezioni.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目 4 8

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Marco Daniele LIMONGELLI 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Corso di conversazione in italiano (livello intermedio): il patrimonio culturale									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso si propone lo sviluppo delle quattro abilità base della comunicazione (parlare, scrivere, leggere e ascoltare), con una particolare attenzione alla comunicazione orale, attraverso l'analisi di due argomenti fondamentali nella cultura italiana: Secondo semestre: il patrimonio culturale</p>											
【到達目標】											
<p>Il corso applicherà ai vari aspetti della quotidianità italiana le nozioni grammaticali e sintattiche precedentemente studiate.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Il corso applicherà a due aspetti della quotidianità italiana (la cucina e il patrimonio culturale) le nozioni grammaticali e sintattiche precedentemente studiate. Per questo scopo si ricorrerà all'ascolto di canzoni, alla visione di brevi spezzoni di film, alla lettura di articoli e fumetti dai principali quotidiani, siti e blog. È inoltre previsto il ripasso e l'approfondimento di alcune nozioni di sintassi e di grammatica della lingua italiana attraverso lo svolgimento di alcune esercitazioni scritte e orali.</p>											
【履修要件】											
<p>Questo corso è rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facoltà.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>È ammessa una sola assenza. Si richiede una partecipazione attiva da parte dello studente attraverso la lettura e lo svolgimento di esercizi settimanali. Inoltre, periodicamente saranno assegnati esercizi preparatori alla lezione, da svolgere individualmente o in gruppo. Al termine del corso, lo studente dovrà redigere una breve presentazione su uno degli argomenti trattati durante le lezioni.</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
【授業外学習（予習・復習）等】											
<p>Settimanalmente verranno assegnati allo studente degli esercizi preparatori alla lezione, da svolgere da solo, o in gruppo insieme agli altri partecipanti della classe. È richiesta la partecipazione attiva da parte dello studente al quale è richiesto di intervenire nelle discussioni di classe e di preparare una breve presentazione su un argomento a scelta tra quelli che saranno trattati durante le lezioni.</p>											
（その他（オフィスアワー等））											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		戦争と植民地の歴史認識 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科		小山 哲 高嶋 航 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		戦争と植民地をめぐる歴史認識問題									
[授業の概要・目的]											
東アジアの日、中、韓・朝間での「歴史認識問題」を中心とし、そこで焦点となっている慰安婦問題など過去の歴史についてより正確な事実を学ぶことを主としつつも、これら三国の間での歴史認識の差異を多面的に考察するとともに、より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。											
[到達目標]											
いわゆる「歴史認識」とはどういうことかを理解したうえで、歴史学的に正確な事実を把握する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
文学研究科，人文科学研究所，人間・環境学研究所の教員を中心に，現在日本，中国，韓国，北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている，過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」について講義します。また，東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についても取扱います。 講義担当者は以下のとおりです。日程については後日掲示します。 小山 哲(文学研究科)：境界を越える歴史認識の試み ポーランドの場合 高嶋 航(文学研究科)：「慰安婦」と中国 永原陽子(文学研究科)：植民地主義の歴史から考える遺骨返還問題 平田昌司(文学研究科)：近現代中国における日本観 吉井秀夫(文学研究科)：朝鮮総督府古蹟調査事業の評価をめぐる 中村唯史(文学研究科)：戦争表象における人間、機械、自然 ソ連「反体制」作家ワシーリー・グロスマン読解 松田素二(文学研究科)：戦時強制連行と被爆の責任と正義回復 朝鮮人元三菱徴用工被爆者の生の軌跡から 谷川 穰(文学研究科)：靖国神社について 塩出浩之(文学研究科)：琉球/沖縄をめぐる歴史認識 江田憲治(人間・環境学研究所)：＜民族協和の理想国＞か？＜帝国日本の植民地＞か？ 「満洲国」をめぐる歴史認識 岡 真理(人間・環境学研究所)：歴史的鏡像としてのパレスチナ/イスラエル 石川禎浩(人文科学研究所)：日中国交回復時(1972年)の歴史認識 小関隆(人文科学研究所)：戦争はいかにして始まるのか？：第一世界大戦の場合 藤原辰史(人文科学研究所)：毒ガスの歴史から考える戦争と植民地 フィードバック											
----- 戦争と植民地の歴史認識(2)へ続く -----											

戦争と植民地の歴史認識(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（50％）とレポート（50％）により総合的に評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

関連する資料を講義担当者が指定した場合、予習しての出席、あるいは事後の自学をおこなっていることを前提に授業をすすめる。

（その他（オフィスアワー等））

専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので、学部や専修の枠にとらわれずに受講してください。

昨年度後期の「戦争と植民地をめぐる歴史認識問題」とかなりの講義が類似の内容なので、重複履修はできません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。